

授業科目	航空産業論						実務家教員担当科目	○					
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期						
担当教員	角谷 尚久												
授業概要	<p>航空産業は第二次世界大戦後に急速に発達した産業である。本講義においては、航空産業や旅行産業での25年以上の実務経験を活かして、本国の航空産業を中心として、歴史や産業構造・将来性などを教授する。具体的には各国の航空輸送の制度や市場動向、国際間での競争、国内外での他産業との競合、路線特性や経営方法、規制緩和によるLCC出現やその将来性について、事例研究ならびに各種映像を用いて俯瞰する。</p> <p>状況により外部講師を招聘し行う場合がある。</p> <p>本科目は講義形式にて行うがアクティブラーニングの手法を取り入れ、毎講義ごとにレスポンスシートの提出を求める。</p> <p>進行状況により、シラバスの変更を行う場合がある。</p> <p>実務家教員として、航空産業や旅行産業での25年以上の経験を活かして、社会人になる為の意識改革、基本的実務を教授する。</p>												
授業形態	対面授業（一部オンデマンド）				授業方法	対面ならびにオンデマンド ICTを活用し、Google クラスルームによる理解促進並びに自主学習支援を行う							
学生が達成すべき行動目標													
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 航空業界の現状と課題を理解できる。 航空業界の現在の取組みを理解できる。 												
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 航空業界の現状と課題を理解できる。 航空業界の現在の取組みを理解できる。 航空業界の課題の解決方法を立案できる。 												
評価方法・評価割合													
評価方法			評価割合（数値）			備考							
試験			50%										
小テスト			0										
レポート			25%										
発表（口頭、プレゼンテーション）			0										
レポート外の提出物			0										
その他			25%			授業参画意欲							
カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング													
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	T031107J		
学習課題（予習・復習）										1回の目安時間（時間）			
予習											4		
授業計画													
第1回	オリエンテーション シラバスの内容、講義の進め方、受講上の注意の説明												
第2回	航空輸送の歴史												
第3回	シカゴ体制と自由化の流れ												

第 4 回	日本の空港の現状と課題（1） 日本の空港制度と政策
第 5 回	日本の空港の現状と課題（2） 地方空港と地域経済
第 6 回	航空運送業の特徴（1） ①航空運送業の特徴 ②旅客需要の特徴
第 7 回	航空運送業の特徴（2） ①安全運航 ②生産性
第 8 回	アライアンス（航空連合）（Ondemand）
第 9 回	ネットワーク戦略とアライアンスについて（Ondemand）
第 10 回	プライシングとレベニューマネジメント
第 11 回	航空会社のマイレージ戦略
第 12 回	日本の 2 大航空会社（外部講師）
第 13 回	航空貨物について
第 14 回	LCC（格安航空会社）の台頭と特徴
第 15 回	まとめ、及び試験
テキスト	適時レジュメを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	「航空事業論」井上泰日子、日本評論社 「現代の航空輸送事業」三田譲 同友館 「エアラインビジネス入門」稻本恵子 編著 晃洋書房
課題に対するフィードバックの方法	定期試験 50%、レスポンスシート 30%、授業態度 20%とする。レスポンスシートについては、授業毎の提出とする。 成績発表後に評価点分布図を提示する。
学生へのメッセージ・コメント	専門用語が多いので、事前に参考図書などに目を通し身につけること。 人文、社会科学系の学部の学生が学修する航空業・ビジネスは、近年「運輸業」ではなく「サービス業」の範疇と言われている。この特徴的業種のビジネスの現状と課題をしっかりと学ぶこと。それには、関連する新聞記事やテレビ番組などを日頃から見ておくことが重要。